

宮城県における小学校社会科副読本の分析：「平成の大合併」に焦点を当てて

著者	吉田 剛, 澤井 文彦
雑誌名	宮城教育大学紀要
巻	48
ページ	69-78
発行年	2014-01-27
URL	http://id.nii.ac.jp/1138/00000254/

宮城県における小学校社会科副読本の分析

——「平成の大合併」に焦点を当てて——

*吉田 剛・**澤井 文彦

Making Analyses of Supplementary Reader on Primary Social Studies in Miyagi Prefecture
; Focusing on “The Great Heisei Merger”

YOSHIDA Tsuyoshi and SAWAI Fumihiko

Abstract

本稿は、宮城県内市町村の副読本の特徴を把握し、「平成の大合併」後の副読本の特徴や課題について検討した。その結果、副読本は冊子型・CD-ROM型ともに広くみられ、様々な工夫が認められ、あるいは教員研修などと絡めながら重要な教材になっていた。合併市町村の副読本は、その多くが教科書準拠型であるが、冊子型とCD-ROM型の長所短所を踏まえ、広く教員による教材開発や授業構成を促進させながら、児童に上手く活用させるように、両者を併用する方向が望まれた。また市町村財政に配慮すると、CD-ROM型と併用する冊子型は学校に据え置き、次の学年へと引き継いで活用させる方法も認められた。

Key words: 「身近な地域」 合併市町村 冊子型 CD-ROM型 ICT活用

1. はじめに

小学校社会科副読本（以後、副読本）には、市町村の地域素材が取り上げられている。このことから副読本は、小学校社会科中学年の「身近な地域」を舞台にした地域学習において、教科書よりも活用性が高く、教師の教材研究や授業の拠り所になっている。ただし「平成の大合併」¹⁾によって市町村境界は変化し、教育現場では副読本の内容構成を再検討せざるを得ない市町村もみられる。また池（2008）は「平成の大合併」によって、地域学習で扱ってきた市町村境界の広域化が進み、児童が直接観察できる「身近な地域」から離れる恐れについて社会科教育学的に指摘している。

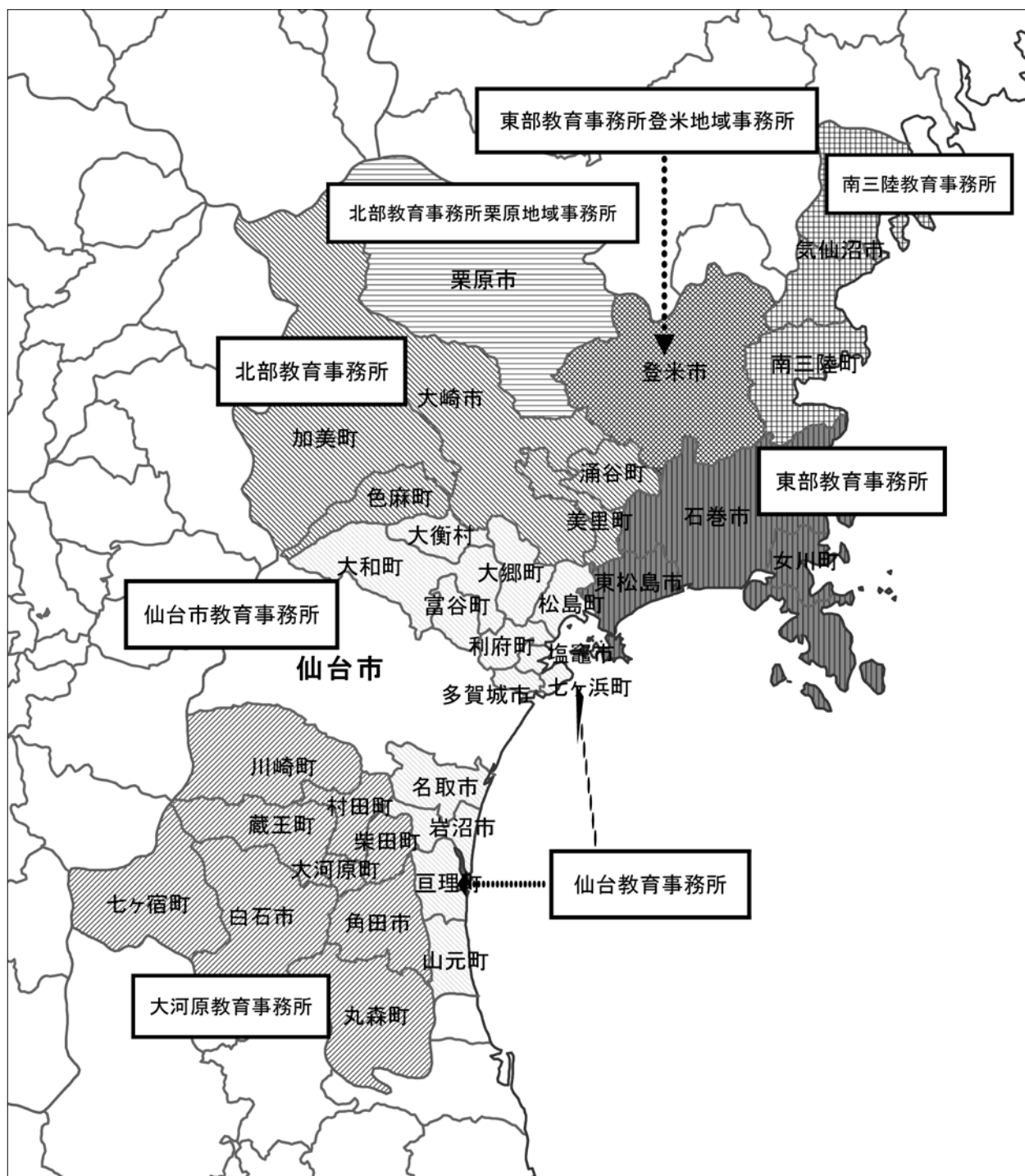
そこで本稿では、宮城県内市町村による副読本に目を向け、その大まかな特徴について分析・把握しながら、

とくに「平成の大合併」後の副読本の特徴や課題について検討することを目的とする。方法は、先行の副読本研究に関する検討を行い、研究上の観点を明確にする。次にその基で、宮城県内市町村による副読本（2009年度発行分）の全ての概要を分析・把握する。そして最後に、「平成の大合併」後の動向や課題について検討し、若干の提言を行う。

ところで宮城県勢に触れると、県人口は約234万人で、そのうち103万人は政令指定都市仙台市に集中している。第1図のように、県内の市町村は35あり、北部では広域合併が進み、広域化している。教育事務所は、地勢的な配慮の基に8つがみられる（第1図参照）。小学校数（2009年時点）では仙台市124校、石巻市43校、大崎市31校となり、20校以上は登米市と栗原市、10校以上は気仙沼市・東松島市・加美町・名取市・白石市

* 宮城教育大学社会科教育講座

** 宮城県角田市立角田小学校



第1図 宮城県内市町村と教育事務所の配置

となる。中でも栗原市は10町村、登米市は9町の合併で新市となり、合併後の教育行政の複雑さが窺える。

2. 先行研究の検討

副読本の議論が芽生えた1970年代以降の主な先行研究には、概ね40本がみられる。それらを総覧すると第

1) 一般的には市町村合併特例法律（平成16年法律第59号）によって1999年4月～2010年3月までに行なわれた市町村合併のことを指し、行財政基盤の強化や地方分権の推進などが目的とされた。

第1表 副読本研究に関する主な論文の内容における分類（澤井文彦作成）

学習指導要領	先行研究（発行年）	(1) 類型研究	(2) 提言研究	(3) 都道府県研究				(4) 歴史的 研究	(5) 合併後 研究	(6) 大学授 業研究
				都道府県	①内容 分析	②単元 分析	③アンケート 制作者 利用者			
昭和 52 年版	日台（1977）	○	○	全国						
	松井（1978）	○	○	愛知						
	愛知教育センター（1979）	○		全国・愛知			○			
	松井（1983）			愛知				○		
平成 元 年版	森脇他（1989）			大阪	○					
	森脇他（1991）			大阪		ゴミ				
	篠原（1992）			香川				○		
	馬庭（1993）	○								
	鈴木他（1993）			滋賀		ゴミ・水				
	田中（1994）			愛知						
	石川（1995）			北海道	○		○			
	小池（1996）	○		全国						
	田村（1996）		○	十勝釧路		農業				
	石間戸（1997）			埼玉	○		○	○		
	伊藤（1997）		○	福井一郡6町	○					
	守田他（1997）		○	大阪						
平成 10 年版	吉田（1998）			北海道		アイヌ	取材			
	守田他（1998）			大阪			○			
	吉田（1999）			北海道		アイヌ				
	里井（1999）			沖縄竹富町						○
	谷田川（1999）		○							
	小西（1999）		○							
	宇都宮（2000）		○	東京	○					
	古岡（2003）			兵庫			○	○		
	河原（2003）		○	石川	○		○	○		
	岩田（2005）			京都		写真				○
	伊藤（2006）		○						○	
	岩田（2006）			京都	○	先人				
	山田・鹿川（2006）			大阪		水害				
	相澤（2007）			愛知大垣市	○	水害				
	小林（2007）			群馬			児童意識		○	
平成 20 年版	伊藤（2008）		○					○	○	
	伊藤他（2008）			香川		水				○
	伊藤・松岡（2008）			香川		水				○
	池（2008）	○	○	静岡	○				○	
	泊（2008）			埼玉	○	先人				
	小林（2008）			群馬			○		○	
	北（2009）	○	○							
	長谷（2009）			和歌山	○					
	小林・山口（2010）			群馬					○	

1表²⁾のように、次の六つの項目によって、その特徴をみることができる。

- (1) その内容を類型化する研究（「類型研究」）
- (2) その在り方を提言する研究（「提言研究」）
- (3) 各都道府県・市町村発行の個別的研究（「都道府県 研究」）：
 - ①「内容分析」

②「単元研究」

③「アンケート調査」

- (4) その歴史的な研究（「歴史的な研究」）
- (5) 「平成の大合併」後の研究（「合併後研究」）
- (6) 大学授業での副読本活用（「大学授業研究」）

続いて、それらの項目に従ってみていく。

「類型研究」をみると、例えば、日台（1977）は30府県

2) 第1表中の日台（1977）は、紙面の関係上、1974年4月から1977年9月までに連載された最初の文献だけを示したものであるが、本分析ではその連載内容全て一括して行っている。同じく北（2009）も、2009年4月から2010年3月までに連載された最初の文献だけを示し、一括して分析を行っている。

の副読本から①教科書準拠、②資料集、③作業帳、④主題別資料集の4つに、愛知県教育センター(1979)は全国の副読本を4つ(①～③は日台と同じ、④郷土読本)に類型化している。

「提言研究」をみると、主に学習指導要領改訂期にみられ、例えば松井(1978)は副読本作成に関わった経験を生かして副読本作成上の問題点とその在り方について述べ、谷田川(1999)は副読本の画一化よりもその多様性や個性を強調している。

「都道府県研究」をみると、東京・大阪・愛知・京都などの大都市圏域を持つ都府県、そして北海道・群馬・香川などの特定の道県で盛んにみられ、32の研究が該当する。東北地方の県を対象にした研究はみられず、本稿にその意義が見いだせる。小項目別にみると、①内容分析(全般)では平成元年版以降にみられ、②単元分析では主にゴミ・水やアイヌ・水害・先人などの地域性が強く描かれる単元が対象となり、③アンケート調査(教育委員会による利用者教員向け)では制作者と一般教師などの利用者、あるいは関係する児童意識などの調査対象の違いがみられ、近年は学校の調査環境の変化によるものか、ほとんどみられない。

「歴史的研究」をみると、伊藤(2008)によって副読本研究史を概ね六つに歴史的に区分され、「合併後研究」では伊藤(2006)、小林(2007、2008)、池(2008)、小林・山口(2010)などによって、全国の市町村合併後の副読本編成の動きが明らかにされている。

「大学授業研究」では里井(1999)や伊藤他(2008)によって、学生と副読本制作を通して地域教材開発力を身に付けさせる実践が報告されている。

以上を基に、本稿では主に①「内容分析」を行い、宮城県内市町村による副読本の概要を把握した上で、「合併後研究」の観点から検討し、「提言研究」へと繋げていく。

2. 宮城県内の小学校社会科副読本の特徴

宮城県の市町村は、2009(平成21)年4月時点で36市町村あるが、そのうち副読本を発行しているのは34市町村である。県南で合同発行している市町があるた

め、宮城県内で発行されている副読本数は31(うち4自治体はCD-ROM版)である。

第2表は、宮城県内市町村による小学校副読本発行状況をまとめたものであり、CD-ROM化された副教材も含めて「副読本」として取り上げている。分析の視点には、①教育事務所管区(8つ)、②市町村名、③人口(千人)、④小学校数、⑤副読本題名、⑥版数、⑦最新版発行年、⑧初版発行年、⑨サイズ(冊子、CD-ROM等の形態も含む)、⑩ページ数、⑪編集者、⑫特記事項、⑬型分けの13を用意した。なお本稿では、気仙沼市に合併(2009年9月)した本吉町の副読本も1町分とした。一方、大河原管区の白石市・蔵王町・七ヶ宿町は1市2町で、角田市と丸森町は1市1町で合同で副読本を発行している。なお県内の2町は副読本を発行していない。

第2表の項目別にみていく。副読本題名をみると、仙台市は2008(平成20)年から仙台市教育センター指導主事を中心に発行体制が変わり、『わたしたちのまち仙台』と名称を変え発行している。それ以外の市町村の冊子型副読本名全ては『わたしたちの〇〇市(町・村)』となっている。CD-ROM型副読本名は、4市町のうち3市町が同じく『わたしたちの〇〇市(町)』となり、栗原市のみが『さあ出かけよう!栗原たんけん隊』という題名となっている。

版をみると、合併市町村も副読本を発行しているため、1の初版も多くみられる。とくに仙台市と石巻市は毎年改訂を行い、岩沼市、亶理市と白石市・蔵王町・七ヶ宿町、本吉町、多賀城市³⁾と七ヶ浜町は10版以上に至っている。新版発行年をみると、2008(平成20)年学習指導要改訂時期において、筆者(澤井)が各市町村教育委員会に訪問調査を行った時点では、副読本改訂作業中のところが多く、ほとんどが2006(平成18)年度以降の発行(24冊/31冊で77.4%)となっていたため、教科書検定後の副読本改訂作業であることが窺えた。初版発行年をみると、1960年代には、白石市・蔵王町・七ヶ宿町(1966)や本吉町(1967)のものがみられ、40年以上の歴史を持つ。1970年代には角田市・丸森町(1970)、多賀城市(1971)、七ヶ浜町(1972)、松島町、塩竈市(1975)、岩沼市(1979)、

3) 多賀城市の副読本は、2011(平成23)年度から、導入部分を冊子、内容部分をCD-ROMという県内初の冊子・CD-ROM併用型となっている。

宮城県における小学校社会科副読本の分析

第2表 宮城県の市町村による小学校社会科副読本の発行状況（澤井文彦作成）

No.	管区	市町村名	人口千人	学校数	副読本題名	版	最新	初版	サイズ	ページ数	編集タイプ*	特記事項	型分け
1	仙台市	仙台市	1034	124	わたしたちのまち仙台	2	2009	2008	B5	112	B	毎年改訂、各ページに 学び方コーナー	I
2	大河原	白石市	37	10	わたしたちの郷土	11	2006	1966	B5	103	A	白石独自で「きれいな まち白石」発行 3市町合同発行	I
3		七ヶ宿町	1	2									
4		蔵王町	12	5									
5		大河原町	23	3	わたしたちの大河原町	—	—	—	B5	111	C	学習の手引き（巻頭）	I
6		柴田町	39	6	未発行	—	—	—	—	—	—	—	—
7		村田町	12	5	わたしたちの村田町	4	2004	1982	B5	82	B	5学校周辺の白地図が 掲載	I
8		川崎町	9	7	わたしたちの川崎町	3	1999	—	B5	88	C	資料編21ページ分支倉 常長	I
9		角田市	31	9	わたしたちの角田市 と丸森町	—	2008	1970	B5	127	C	2市町合同発行	II
10		丸森町	15	8									
11	仙台	塩竈市	57	7	わたしたちのしおが ま	1	2005	1975	B5	102	A	平成4年、平成17年大 改訂	I
12		利府町	33	6	わたしたちの利府町	5	2008	1984	A4	121	C	平成4年に大改訂	I
13		松島町	15	3	わたしたちの松島	7	2006	1975	B5	90	A	現在改訂作業中	II
14		多賀城市	63	6	わたしたちの多賀城	10	2005	1971	A4	122	D	現在改訂作業中一部 CDROM化	読
15		七ヶ浜町	20	3	わたしたちの七ヶ浜 町	10	2008	1972	A4	102	F	中学校も含め学校史を 記載	読
16		名取市	72	11	わたしたちの名取市	—	2007	—	B5	105	G	資料編10P掲載	I
17		岩沼市	44	4	わたしたちの岩沼	14	2009	1979	B5	86	G	現在改訂作業中	II
18		亘理町	34	6	わたしたちの亘理町	13	2008	1985	A4	142	F	地域史を詳記載、難易 語集	I
19		山元町	16	5	わたしたちの山元町	4	2007	1995	B5	110	G	題名後「3～6年生」 付記	I
20		大和町	24	6	わたしたちの大和町	6	2006	1985	A4	112	A	地域史を詳記載、付録 地図	I
21		富谷町	46	7	わたしたちの富谷町	7	2008	1983	A4	118	A	中学生用副読本有	II
22		大郷町	8	4	わたしたちの大郷町	6	2006	1982	B5	97	A	支倉常長と国際交流を 記載	II
23		大衡村	5	1	わたしたちの大衡村	3	2000	1984	A4	101	C	改訂予定	II
24	北部	大崎市	135	31	わたしたちの大崎市	1	2009	2009	B5	121	E	合併後初の副読本	I
25		涌谷町	17	5	わたしたちの涌谷町	6	2008	—	B5	125	C	地域開発や地域史を詳 記載	I
26		美里町	25	6	わたしたちの美里町	1	2006	2006	CDROM	206	A	フローチャート	C
27		加美町	25	10	わたしたちの加美町	1	2007	2007	A4	144	C	合併後初の副読本	I
28		色麻町	7	2	わたしたちの色麻町	2	1998	1980	B5	106	A	地域史について詳記載	II
29	北部 栗原	栗原市	75	29	さあ出かけよう栗原 たんけん隊	1	2007	2007	CDROM	348	—	増補資料『岩手・宮城 内陸地震』	C
30	東部 登米	登米市	84	23	わたしたちの登米市	1	2006	2006	CDROM	669	C	活用事例集	C
31	東部	石巻市	161	43	わたしたちの石巻	3	2009	2007	A4	171	G	毎年改訂中学生用副読 本有	II
32		東松島市	42	10	わたしたちの東松島 市	1	2007	2007	B5	142	C	合併後初の副読本	II
33		女川町	10	5	わたしたちの女川町	—	2006	—	A4	106	C	鯨を記述、地域史を詳 記載	II
34	南三陸	南三陸町	17	5	未発行	—	—	—	—	—	—	—	—
35		気仙沼市	74	17	わたしたちの気仙沼 市	1	2008	2008	CDROM	667	E	活用事例集、本編以外 に2枚のCD	C
36		本吉町	—	4	わたしたちの本吉町	11	2006	1967	A4	116	A	2009年9月合併のため 廃刊	I

表中の「人口」は2010年1月1日時点での『宮城県統計課統計データ宮城県推計人口（月報）』による。また「学校数」は『宮城県教育関係職員録2009』による。

*編集タイプ

A型：校長・教頭・教諭の共同。 B型：学識経験者・博物館資料館職員・校長・教頭・教諭の共同。

C型：教育長・教育委員会・校長・教頭・教諭の共同。 D型：学識経験者・教育長・教育委員会・校長・教頭・教諭の共同。

E型：指導主事・校長・教頭・教諭の共同。 F型：教諭のみ。 G型：その他。 —：不明。

第4表 宮城県の市町村合併の状況と小学校社会科副読本の発行状況（澤井文彦作成）

No	市町名	合併月日	合併前の市町村	副読本・教材発行状況
①	加美町 (新設)	2003 (H15) 年 4 月 1 日	加美郡 (中新田町・小野田町・宮崎町) 3 町	副読本『わたしたちの加美町』2007 (H19) 年初版
②	石巻市 (新設)	2005 (H17) 年 4 月 1 日	石巻市・桃生郡 (河北町・雄勝町・河南町・桃生町・北上町)、牡鹿郡牡鹿町の 1 市 6 町	副読本『わたしたちの石巻』2007 (H19) 年初版
③	登米市 (新設)	2005 (H17) 年 4 月 1 日	登米郡 (迫町・登米町・東和町・中田町・豊里町・米山町・石越町・南方町・津山町) 9 町	CD-ROM 版『わたしたちの登米市』2006 (H18) 年初版
④	栗原市 (新設)	2005 (H17) 年 4 月 1 日	栗原郡 (築館町・若柳町・栗駒町・高清水町・一迫町・瀬峰町・鶯沢町・金成町・志波姫町・花山村) 10 町村	CD-ROM 版『さあ出かけよう! 栗原たんけん隊』2007 (H19) 年初版
⑤	東松島市 (新設)	2005 (H17) 年 4 月 1 日	桃生郡 (矢本町・鳴瀬町) 2 町	副読本『わたしたちの東松島市』2007 (H19) 年初版
⑥	南三陸町 (新設)	2005 (H17) 年 10 月 1 日	本吉郡 (志津川町・歌津町) 2 町	現在未発行
⑦	美里町 (新設)	2006 (H18) 年 1 月 1 日	遠田郡 (小牛田町・南郷町) 2 町	CD-ROM 版『わたしたちの美里町』2006 (H18) 年初版
⑧	大崎市 (新設)	2006 (H18) 年 3 月 31 日	古川市、志田郡 (松山町・三本木町・鹿島台町)、玉造郡 (岩出山町・鳴子町)、遠田郡田尻町の 1 市 6 町	副読本『わたしたちの大崎市』2009 (H20) 年初版
⑨	気仙沼市	2006 (H18) 年 3 月 31 日	気仙沼市、本吉郡唐桑町の 1 市 1 町 (新設)	CD-ROM 版『わたしたちの気仙沼市』他 2 枚、計 3 枚 2008 (H20) 年初版
		2009 (H21) 年 9 月 1 日	気仙沼市、本吉郡本吉町の 1 市 1 町 (編入)	

第5表 宮城都市町村の副読本を CD-ROM 化した教育委員会担当者への電話取材の回答（澤井文彦による）

CD-ROM 型副読本	教育委員会による CD-ROM の配布方法	旧市町副読本の活用
『わたしたちの美里町』	コンピュータ教室の台数分を学校に配布している	旧小牛田町の副読本を旧町で学校据え置きで活用
『わたしたちの登米市』	オリジナル1枚のみを CD-ROM を配布している	把握していない
『わたしたちの栗原市』	業者により各学校のコンピュータサーバーにインストール、予備・緊急のためオリジナル 1 枚を配布	把握していない、教育委員会に旧町副読本を保管
『わたしたちの気仙沼市』	本編は各学校のコンピュータ台数分を配布	旧唐桑町は旧副読本を学校保管活用

1980年代には仙台市に近い色麻町（1980）、村田町・大郷町（1982）、富谷町（1983）、利府町・大衡村（1984）、亘理町・大和町（1985）、1990年代には現在廃刊の柴田町（1990）⁴⁾ や山元町（1995）で始められている。

サイズや発行形態をみると、B5 版の副読本が16冊（51.6%）で多く、A4 版は11冊（35.4%）となる。A4 版は仙台管区で多く、仙台市より北の市町村で A4 版化が進んでいる。新しい副読本の形態となる CD-ROM は県北部の合併した 4 市町で12.9%を占めている。ページ数をみると、101ページから130ページのものが多く、58%を占めている。ページ数が多い市町村には、石巻市（171P）、東松島市・亘理町（142P）があげられる。CD-ROM 版については、1 画面 1 P、拡大画面の写真 1 P、PDF をページごとに数えると、多くの情報が示せるものになっている。

編集者をみると、宮城県では C 型（32%）と A 型（29%）が多い。B 型の仙台市では仙台市博物館職員、村田町では郷土資料館（歴史みらい館）職員、D 型の

多賀城市では東北歴史博物館の職員が加わっている。G 型では石巻市で元校長が監修し指導主事が事務局となり、名取市ではイラスト挿入で市民が参加し、岩沼市では歴代副読本編集委員名が全員列挙され、山元町では教育委員会から 5 人参加している。特記事項をみると、石巻市と富谷町は中学生用副読本を発行し、大規模な地震に見舞われた栗原市は増補資料『岩手・宮城内陸地震』CD-ROM・2 枚を発行している。ほかに、別紙付録に地図が付く『わたしたちの多賀城』（大小 2 枚の地図）、『わたしたちの大和町』（地図1枚）がある。

以上から、これらの副読本を、前述した「類型研究」から得られたアプローチを基に、「教科書準拠 I 型」：教科書と概ね同じ内容構成や目次配列を取るもの、「教科書準拠 II 型」：教科書準拠でありながらも目次配列が異なるもの、「読本型」：読み物的な性格が強いもの、「CD-ROM 型」：CD-ROM 形式で作成されているもの、の四つに分類することができる。

宮城県では「教科書準拠 I 型」が15例、「教科書準拠

4) 柴田町の副読本は、2011（平成23）年度から復刊（A4 版、112ページ）した。

Ⅱ型」が10例、「読本型」が2例、「CD-ROM」型が4例となり、教科書準拠の二つの型が80%以上を占める。したがって、宮城県内市町村による副読本の多くには、教科書に沿って資料集やワークブックなどとしての役割が持たせられている。この場合、概ね教科書に沿っているため、とくに社会科を専門としない小学校教員にとっても、広く活用されやすい汎用性の高い形態をとっていることになる。なお、副読本が未発行2町の教員への聞き取りの結果、以前の副読本の学校据え置き、教材研究に活用されている。

3. 合併後の小学校社会科副読本

第4表より、2007（平成19）年の石巻市と東松島市と加美町、2009（平成21）年の大崎市の4市町は冊子型で発行し、2006（平成18）年の美里町と登米市、2007（平成19）年の栗原市、2008（平成20）年の気仙沼市の4市町はCD-ROM型で発行している。

第5表は、CD-ROM型をとる各市町村教育委員会に電話取材を行った結果である。例えば、2009年に気仙沼市に合併した本吉町は、現在使用している副読本を気仙沼市にすべて移管するが、地域学習の際に学校据え置きにして使用すると説明し、気仙沼市の方では、今後旧本吉町を視野に入れた副読本の改訂を実施予定であると説明している。

次に、第4表に沿って、各合併市町村別にみていく。

①『わたしたちの加美町』（冊子型）

加美町は3町合併の町であり、副読本では新町の紹介から始まる。「町の移り変わり」（歴史）と「これからの加美町」（未来）の部分が厚く、民話や旧町の歌等の資料の分量が多い。

②『わたしたちの石巻市』（冊子型）

新石巻市は、1市6町合併の新市である。2007年作成の副読本は新市の地図や概要の説明から始まる。取材によると、毎年副読本を改訂し、副読本を使った研究授業を行い、その指導案は市HPに「社会科副読本指導事例集」として掲載されている。副読本には、新市の地図が至るところにみられ、巻末には旧市町・新市の年表が掲載されている。旧町では、以前の旧町制作の副読本を教室据え置き、部分的に活用している地域・学校もある。

③『わたしたちの登米市』（CD-ROM型）

登米市は9町合併の新市であり、669画像のCD-ROM型を作成している。CD-ROM型の特色を生かして学習課題を提示し、ワークシートや市内23校分すべての学校の白地図等がプリントアウトできるように工夫されている。また、登米市教育研究所が中心となり、CD-ROM型を活用した授業に関する『実践事例集』を発行し、毎年、この使い方の教員向け研修会を実施している。

④『わたしたちの栗原市』（CD-ROM型）

栗原市は10町村合併の新市である。『さあ出かけよう！栗原たんけん隊』というタイトルや、単元も例えば「学校のまわりたんけん隊」の名称を使い、児童の興味・関心が配慮されている。348画像と各学校付近の映像や白地図やワークシートなどが用意されている。

⑤『わたしたちの東松島市』（冊子型）

東松島市は、2町合併の新市である。新市の紹介から始まるが、旧2町が均等に扱われ、新市の違和感が配慮されている。

⑥ 未発行

⑦『わたしたちの美里町』（CD-ROM型）

美里町は県内で最も早くCD-ROM型をとっている。それは、旧町の南郷町が県内に先駆けて作った経緯からである。そのCD-ROM型の特徴は、内容が一枚の紙媒体のフローチャート形式で概観でき、授業構成上で分かりやすい点である。また飛行機から撮影した美里町の動画映像も組み込まれている。

⑧『わたしたちの大崎市』（冊子型）

大崎市は1市6町合併の新市であり、副読本では、とくに単元「これまでの大崎市とこれからの大崎市」をつくり、市町合併の様子やこれからのまちづくりが記述されている。

⑨『わたしたちの気仙沼市』（CD-ROM型）

気仙沼市では副読本を667画像でCD-ROM化した。CD-ROM型を配布した年とその翌年に、市内の小学校中学年教員を全員集め、CD-ROMの構成やその活用等に関する研修会を行った。さらにその研修を受けた教員が各学校で伝達講習会を行い、『活用事例集』も作成している。

以上から、合併後の副読本の多くは、前章でみたように教科書準拠型でありながら、冊子型もCD-ROM型も、旧市町村と新市町のどちらも取り上げ、丁寧に扱

われていることが窺える。冊子型の副読本の多くは、合併前の副読本を精選し、編集委員の地域的均等に配慮しながら、それぞれの旧市町の歴史等の特色から新市町の未来像を描く構成へと編集している。CD-ROM型では、これまで補助教材であったスライド・OHP等も含めて多くの情報をCD-ROMに納め、冊子型にない機能と活用性を備えている。具体的には、ワークシートのプリントアウトや動画視聴、写真や地図資料等を拡大提示できるといった現代的なICT教育に見合う教材となり、教師や児童にとって好評価されやすいことが窺える。

課題には、冒頭の池（2008）による指摘のように、冊子型・CD-ROM型ともに、新市町と児童にとっての身近な地域の範囲との乖離を問題にしなければならない。冊子型については、新市町における特定の典型教材の取り上げや、旧市町村ごとのわずかで概略的な題材の取り上げの傾向もみられ、偏るか浅くなるかの内容構成上の問題も生じるため、様々な児童や地域のニーズに応じた教師の教材研究や授業構成力に期待せざるを得ない。その点、CD-ROM型では、旧市町村の題材をそのまま取り込むことができるため、授業時間の確保もあるが、上記の問題の緩和に役立てられる。ただしCD-ROM型の中には、旧市町村の冊子副読本を単にPDF化しただけの授業活用しづらいものもあり、やはり教師力に期待せざるを得ない。また、CD-ROM型には、児童の手元に資料がない点が課題として指摘できる。従来、冊子型の場合では、地域学習で調べ学習をするときに重要な資料の一つとして児童の手元において活用されてきた。この問題点には第5表の取材より、旧市町の副読本も補助的に活用していることも分かっている。加えて、CD-ROM型の活用には、PCやプロジェクターなどの機材や環境の整備が必要となり、その有無が大きな問題となる。

以上から、その多くが教科書準拠型であるが、冊子型とCD-ROM型の長所短所を踏まえ、作成者側の意図を理解し、広く教員による教材開発や授業構成を促進させながら、児童に上手く活用させるように、両者を併用する方向が望まれる。また、市町村財政に配慮すると、CD-ROM型と併用する冊子型は学校に据え置きながら、次の学年へと引き継いで活用させる方法もあろう。

4. むすび

大森ら（1993）によれば、副読本は自主的に地域学習を展開できる力量を持つ教師が少なく、社会科指導を十分できる教師が多くないために作成されている。この点を踏まえると、本稿の結果から、宮城県内の副読本は冊子型・CD-ROM型ともに広くみられ、様々な工夫が認められ、あるいは教員研修などと絡めながら重要な教材になっている。また、「平成の大合併」による合併市町村における冊子型とCD-ROM型の特徴からは、合併後のその在り方に関する課題も見いだせた。

研究上の課題には、2010（平成20）年度より新副読本に移行・改訂した市町村が多く、その新副読本に関する調査・分析を進めることや、CD-ROM型をとる市町村の小学校中学年教員への実態調査を行い、教員側からみるCD-ROM型の効果や課題について検討すること、とくに2011（平成21）年度より冊子型とCD-ROM型を併用する多賀城市の場合について検討することなどがあげられる。

謝辞・付記

市町村教育委員会に関わる方々には、貴重な副読本を贈呈（貸与）して頂き、また様々なご助言を頂きました。本稿は、澤井文彦（宮城県派遣の宮城教育大学教職大学院生時）による2009年度社会系教科教育学会研究大会（兵庫教育大学）および2010年度日本社会科教育学会研究大会（筑波大学）にて発表した成果の一部に、加筆・修正したものである。

文献

- 愛知県教育センター（1979）：第2次世界大戦後における愛知県の教育に関する歴史的研究社会科副読本を中心とした地域学習の推移．研究紀要別冊，pp.1-58.
- 相澤亮太郎（2007）：水害常習地域の空間認識－大垣市の社会科副読本、ハザードマップ、手描き地図に着目して－．人文地理，59（3），pp.69-83.
- 石川円（1994）：北海道における小学校中学年用社会科副読本の編集刊行状況．北海道教育大学札幌・岩見沢校社会科研究会，pp.123-137.

宮城県における小学校社会科副読本の分析

- 池俊介（2008）：市町村合併に伴う社会科副読本の課題．早稲田大学大学院教育学研究科紀要，18，pp.1-14.
- 石間戸久幸（1997）：小学校社会科副読本に関する研究．上越教育大学大学院修士論文．
- 伊藤千晶（1994）：福井県における小学校中学年の社会科副読本の研究．滋賀大学教育学部社会科教育研究室紀要社会科教育の創造，4，pp.27-36.
- 伊藤裕康（2006）：市町村合併時代の小学校社会科地域学習と副読本．地理学報告，102，pp.1-15.
- 伊藤裕康（2008）：社会科副読本に関わる実践及び研究の歴史から見た社会科地域学習の現状と課題．香川大学教育実践総合研究，17，pp.1-13.
- 伊藤裕康・光田淳二・小山沙織（2008）：副読本作成経験の『意味』－大学院生による副読本作成を通して－．香川大学教育実践総合研究，16，pp.143-156.
- 伊藤裕康・松岡洋介（2008）：地理教員養成教育における副読本作成活動の『意味』．地理学報告，106，pp.33-46.
- 岩田貢（2005）：地域調査の入門期指導に関する研究（その1）小学校社会科副読本に掲載された写真の分析．龍谷紀要，26，pp.77-94.
- 岩田貢（2006）：地域調査の入門期指導に関する研究（その2）小学校社会科副読本に掲載された先人の事績の分析．龍谷紀要，27，pp.103-121.
- 宇都宮晃（2000）：東京都の小学校中学年用社会科副読本の研究．上越教育研究，15，pp.125-134.
- 馬庭清志（1993）：『副読本』の満足感のある使い方アイデア．『教育科学 社会科教育』明治図書，pp.12-15.
- 大森照夫・佐島群巳・次山信男・藤岡信勝・谷川彰英編（1993）：『新訂社会科教育指導用語辞典』教育出版，pp.106-109.
- 河原吉章（2003）：石川県における小学校社会科副読本の改善に関する分析的研究．上越教育研究，18，pp.21-30.
- 北俊夫（2009）：社会科副読本の扱い方編集コンセプト－新教材の開発とページづくりのヒント－．『教育科学社会科教育600』明治図書，pp.107-111.
- 小池俊夫（1996）：教育メディアの研究5－社会科副読本の構成の考察－．日本私学教育研究所紀要，31，pp.43-54.
- 小西正雄（1999）：地域副読本の未来像－指導要領の“ねがい”をどう具体化するか－．『教育科学社会科教育474』明治図書，pp.28-34.
- 小林沙織（2007）：児童・生徒の市町村合併に対する意識．群馬大学社会科教育論集，16，pp.137-139.
- 小林沙織（2008）：市町村合併に関わる小学校社会科地域学習の副読本及び授業実践に関する考察－群馬県藤岡市の場合－．群馬大学社会科教育論集，17，pp.2-5.
- 小林沙織・山口幸男（2010）：市町村合併に伴う小学校社会科副読本の変化と課題－群馬県の前橋市、みどり市を事例に－．群馬大学教育実践研究，27，pp.1-12.
- 里井洋一（1999）：竹富島社会科副読本づくりの意味－地域の課題『結びあう島じま』－．歴史地理教育，595，pp.14-22.
- 篠原重則（1992）：小学校3年生「身近な地域」の授業実態と教師の意識－香川県の事例－．新地理，40（3），pp.14-28.
- 鈴木正氣・畑中耕輔・西田和弘（1993）：滋賀県下の小学校3・4年生社会科副読本の比較研究－環境教育の視点から見た単元「けんこうなぐらし」の検討－．滋賀大学教育学部教育実践研究指導センター 紀要創刊号パイディア，pp.15-22.
- 田中勝（1994）：小・中学校の生活科及び社会科におけるまちづくり教育に関する研究－その1 愛知県下88市町村における小学校3年生用社会科副読本の作成状況－．日本建築学会東海支部研究報告，pp.681-684.
- 谷田川和夫（1999）：「多様さ個性的」こそ魅力－副読本を地域を学ぶ原動力に－．歴史地理教育，595，pp.8-13.
- 田村真広（1996）：社会科副読本に見る教育的機能とその有効活用へ向けての課題－農業単元に焦点を当てて－．釧路論集：北海道教育大学釧路分校研究報告，28，pp.49-61.
- 泊善三郎（2008）：小学校社会科「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」の指導について．文教大学教育学部紀要，42，pp.69-78.
- 長谷正紀（2009）：小学校用社会科副読本について－和歌山県の場合－．日本社会科教育学会第59回全国研究大会資料自由研究Ⅰ第9分科会資料．
- 日台利夫（1977）：社会科副読本の扱い方．『教育科学社会科教育168』明治図書，pp.116-120.
- 古岡俊之（2003）：小学校中学年社会科副読本の改善の提言－兵庫県における小学校社会科副読本の活用場面分析を通して－．新地理，51（3），pp.28-37.
- 松井貞雄（1978）：小学校中学年社会科副読本作成上の問題点．地理学報告，47，pp.188-195.
- 松井貞夫（1983）：西三河における小学校社会科副読本の利用状況．地理学報告，56，pp.17-27.
- 守田優・増穂栄作・安宅裕子・大庭里美・中山梅乃・山内くに子（1997）：大阪府における小学校社会科副読本の現状．大阪教育大学実践学校教育研究，1，pp.79-100.
- 守田優・増穂栄作・安宅裕子・大庭里美・中山梅乃・山内くに子（1998）：大阪府における小学校地域（郷土）学習副読本の素材と利用．大阪教育大学紀要第Ⅴ部門，47（1），pp.25-38.
- 森脇健夫・石川一恵・臼井正幸・中井重勝・立花昇（1989）：大阪府下の小学校3・4年生社会科副読本の比較研究（第1報）．大阪教育大学紀要第Ⅴ部門，38（2），pp.157-174.
- 森脇健夫・石川一恵・臼井正幸・中井重勝・立花昇（1991）：

- 大阪府下の小学校3・4年生社会科副読本の比較研究(第2報). 大阪教育大学紀要第V部門, 39(2), pp.159-173.
- 山田周二・鹿川紅美(2005):大阪府の水害履歴と小学校社会科副読本における水害に関する記述. 大阪教育大学紀要第II部門, 54(2), pp.1-11.
- 吉田正生(1998):タウン北海における新社会科副読本の生成過程－アイヌ民族関係記述の場合－. 教育社会学研究, 63, pp.99-117.
- 吉田正生(1999):道内社会科副読本(平成9年度)におけるアイヌ民族記述について. 北海道教育大学旭川校, pp.53-65.

(平成25年9月30日受理)